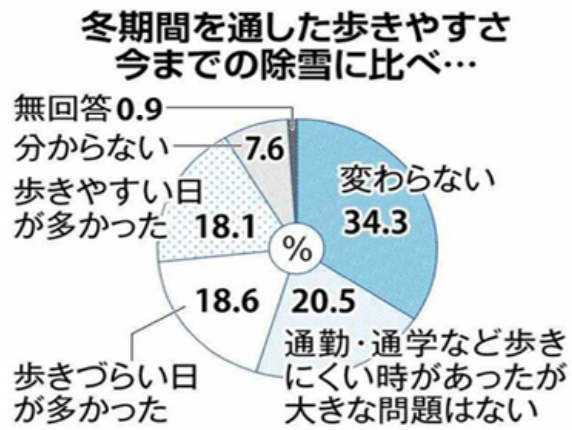
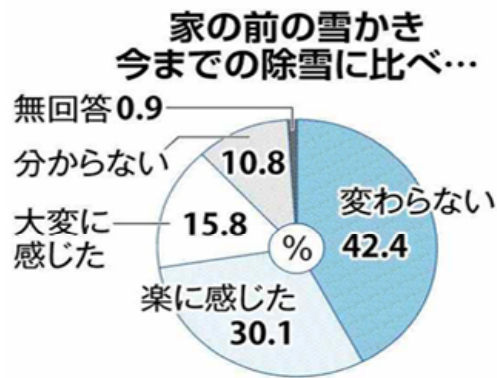




年 組 名前

道新 ワークシート



札幌市は、市内の一部で試行中の新たな除排雪方法について、2020年度の実績と住民アンケートの結果をまとめた。除雪車の出動基準を緩めたところ、出動回数が近隣地域より6割減ったものの、圧雪路面を整える手法を導入したことで住民の約7割が「大きな

上」に変更。道路の片側だけ除雪する手法で省力化する代わりに、圧雪の凸凹路面を計画的に削って整える作業を増やした。19年度は西区と手稲区の3地域約15区、20年度は全10区の13地域約96区で実施した。

市内の住宅街などでは、10区以上の降雪があった場合、夜間に一斉に出動して路面の雪を道路の両脇に寄せていたが、除雪作業員の負担増や人手不足が課題になっていた。高齢の単身世帯が増えて玄関前の雪かきも難しくなるとみて、効果的な方法を探っている。

20年度の実績をみると、試行地域の除雪回数は「4・9回」。隣接地域の「11・5回」に比べ、6割近く減った。一方、圧雪の路面を削って整える作業は「4・6回」と、隣接地域の「2・5回」より増やした。

市雪対策室は今季も試行地域を増やす方針で、「(昨季は少雪だったが) 平年並みの降雪に対応できるかを確認しながら除雪業者側と相談し、市民の理解が得られるか見極めたい」と話している。

(阿部里子)

除雪車出動を抑制 新除排雪方法 住民7割「支障なし」

市調査

2021年11月6日 (土) 朝刊地方 (札幌市内) 16 ページ (記事は再編集しています)

①これまでの除雪方法では、どんなことが課題となっていますか。2つ答えましょう。

()
()

②新しい除雪方法では、市民にどのようなよいことがあると考えられますか。

③新しい除雪方法について、あなたはどのように考えましたか。